

ダニエル書 - 第百五十六番

ダニエル書の最後の幻を解き明かす：現代のための預言的真理に関するミラー派の視点

Jeff Pippenger

2024-03-24

私たちは、アルファとオメガで表されている原則——彼が常に初めによって終わりを示すことを指し示す原則——を適用することから、ダニエルの最後の幻の考察を始めている。したがって、ダニエルの最後の幻の第一節にあるダニエル、すなわちベルテシャツァルは、その同じ幻の終わりの部分にもまた表されることになる。私たちは、ベルテシャツァルが、終わりの時代の神の契約の民を表しており、その民は第一節の「thing」という語で表されている預言的歴史の幻、すなわち「chazon」を理解している、と認識している。その預言的歴史の幻とは、レビ記26章の「七つの時」であり、2520年に相当する。ベルテシャツァルはまた、第一節の「vision」も理解しているが、これは2300年の「mareh」の幻であり、キリストの突然の現れを表している。

ダニエル書第十二章は、第一の天使の運動と第三の天使の運動の双方を表している。というのも、両運動はいずれも十人のおとめのたとえを成就しているからである。第十二章には、ミラー派運動の一部であった少なくとも五つの真理があり、それらは第三の天使の運動もまた経験し理解しなければならない真理を表している。両運動は十人のおとめのたとえを成就しており、両運動の賢いおとめたちはその預言的事実を理解することを求められている。両運動は、レビ記二十六章の「七つの時」によって示されている、ミラーが導かれて認識した最初の預言的真理を理解しなければならない。その他の三つの並行する経験と理解は、この章の最後の数節に見いだされる。

また、日ごとのささげ物が取り去られ、荒廃をもたらす忌むべきものが据えられる時から、千二百九十日がある。待ち望み、千三百三十五日に至る者は幸いである。しかし、あなたは終わりまで行きなさい。あなたは休み、日数の終わりにあなたの定められた分に立つであろう。ダニエル書 12:11-13。

ヨハネの黙示録における神の残りの民は、三つの主要な預言的特質を備えている。彼らは神の戒めを守り、イエスの信仰を持ち、預言の霊を重んじる。

そして彼は私に言った。「書き記せ。小羊の婚宴に招かれている者は幸いである。」また彼は私に言った。「これらは神のまことの言葉である。」私は彼を礼拝しようとして彼の足もとにひれ伏した。すると彼は私に言った。「それはしてはならない。私はあなたと、イエスの証を持つあなたの兄弟たちと同じしもべである。神を礼拝せよ。イエスの証は預言の霊であるからだ。」黙示録 19:9、10。

ミラー派は、ダニエル書の「常の務め」が異教を表していること、また「常の務め」が「取り去られた」時が508年であることを正しく理解していた。その真理を退けることは、「イエスの証し」、すなわち「預言の霊」の権威を退けることである。なぜなら、「預言の霊」は、ミラー派が「常の務め」の理解において正しかったことを明確に示してい

るからである。

それから私は、『Daily』に関して、『sacrifice』という語は人間の知恵によって補われたものであり、本文に属するものではないこと、そして主はその正しい見解を「裁きの時の叫び」を上げた者たちにお与えになったことを見た。1844年以前、一致があった時には、ほとんどの者が『Daily』についての正しい見解で一致していたが、1844年以後は混乱の中で他の見解が受け入れられ、闇と混乱が後に続いた。Review and Herald、1850年11月1日。

ミラー派は、538年に教皇権が権力の座に就くことへの異教の抵抗が、508年に取り除かれたと理解していた。ミラー派は正しかったが、その理解は限定的であった。1節でベルテシャツアルとして表されている神の終末の民は、508年から538年までの期間が、キリストの生涯においてバプテスマで力を受ける前にあった三十年の準備によって型として示された予言的期間を表していることを見るだろう。彼らはまた、その予言的期間が1776年から1798年までの予言的期間をも表していること、そしてそれら三つの期間はいずれも、2001年9月11日に始まり、やがて来る日曜法において完結する、十四万四千人の封印の時を表していることを見るだろう。

第十二章では、ダニエルはミラー派を表すとともに、ベルテシャツアルに象徴される人々のうちに繰り返されるべき五つの重要な真理と経験をも表している。ミラー派の第三の真理と経験は「『daily』の正しい見解、…主は…審判の時の叫びを上げた者たちに与えられた」である。その真理を拒むことは、預言の霊であるエレン・ホワイトの著作を拒むことになる。ミラー派と第三の天使の使者たちの第四の真理と経験は、千三百三十五年の預言であり、それは『daily』が取り去られた年、508年に始まった。

508年から始めると、1335年は1843年に至る。しかし単に1843年というだけではない。というのも、その預言は実際には1843年の末日を正確に指し示しており、そこには「待ち、千三百三十五日に至る者は幸いである」と記されているからである。「cometh」と訳されているヘブライ語は「naga」で、「触れる」または「手を置く」を意味する。したがって、この預言は、「待ち、」1843年に「触れる」あるいは「手を置く」者は幸いである、ということの意味する。

ミラー派の歴史における待つことの祝福は、最初の失望を経験しつつも、遅れている幻を待った賢い乙女たちのためのものであった。ミラー派が十人の乙女のたとえとハバクク書2章の成就として「遅れている幻」を待ったとき、彼らは祝福を受けた。その待機の時に彼らは、自分たちがそのたとえを成就しており、終わりには幻が「語る」ことを悟った。彼らの待機の時と失望は、二千三百年が1843年に終わると誤って定めたことに基づいていたが、幻は実際には1844年を指していた。彼らの失望は、キリストが再臨しないまま1843年が終わったときに生じた経験に基づくものだった。彼らの失望と、その後待つことを選んだ者たちに与えられた祝福はすべて、1844年に「触れる」または「至る」1843年のまさに最後の一日に基づいていた。

十人の乙女のたとえの成就としての最初の失望の経験は、ベルテシャツアルに象徴されている者たちにおいて理解され、再現される。ベルテシャツアルに象徴されている者たちが認める第五の真理と経験は、「日の終わり」に、ダニエルが「自分の割り当ての所に

立つ」ということである。

「封印が取り除かれ、真理の光が彼の幻の上に輝いて以来、ダニエルは自分の受くべき分に立っている。彼は自分の受くべき分に立ち、終わりの時に理解されるべきであった証しを担っている。」『Sermons and Talks』第1巻、225、226頁。

ミラー派の人々は、1798年に封印が解かれたダニエル書からもたらされた知識の増加によって成し遂げられた清めの過程を経験した。ベルテシャツアルに象徴される者たちも、1989年にダニエル書の封印が解かれたときにもたらされた知識の増加によって成し遂げられる清めの過程を経験する。彼らはまた、ダニエル書が十四万四千人の封印において特別な役割を持っていることを理解するようになる。

「神が人に特別な働きを委ねられるとき、その人はダニエルがそうしたように、定められた分と持ち場に立ち、神の召しに応えるべく備え、御旨を成就するべく備えていなければならない。」『原稿集』第6巻、108ページ。

元ラオディキア人として、ベルテシャザルに象徴される者たちは、最後のリバイバルが、同一の書であるダニエル書と黙示録を通して成し遂げられるのだと認識するだろう。

「ダニエル書とヨハネの黙示録がよりよく理解されるとき、信徒はまったく異なる宗教体験をするようになる。……黙示録の研究から必ず理解される一つのことは、神とその民との関係が密接で、しかも確固たるものであるということである。」『私の生きる信仰』345ページ

かつてラオディキア人であった者として、彼らは自分たちのラオディキア的な状態を認め、また、自分たちが霊的には乾いた骨の谷のように死んでいたことを認め、そして自分たちの死んで失われた状態についての率直な証言に応じて、生きた者となる必要が最優先であることを認識するだろう。

「私たちにとって最も大きく、最も切迫した必要は、私たちの間に真の敬虔さの復興が起こることである。これを求めることは、私たちの第一の務めであるべきだ。」『セレクトッド・メッセージ』第1巻、121ページ。

聖書の約束は、求める者はだれでも見だし、そしてそのとき聖霊が彼らを導いて、必要なリバイバルを生み出すのはダニエル書と黙示録であることを理解させてくださる、ということである。

「私たちが一つの民として、この本が私たちにとって何を意味するのかを理解するとき、私たちの間に大いなるリバイバルが起こるだろう。」『Testimonies to Ministers』113ページ。

十二章に示されているように、ダニエルの最後の幻の終わりは、最後の幻の第一節でベルテシャザルによって表されている、神の終わりの日の契約の民を生み出す経験を明らかにしている。そこでは、ベルテシャザルとして表されたダニエルは、二千三百年の内的な幻と二千五百二十年の外的な幻の双方を理解している。彼は「事柄」と「幻」を理解している。彼はchazonの幻とmarehの幻を理解している。彼は聖所と軍勢の踏みにじりと、聖所と軍勢の回復を理解している。彼はウライ川とヒデケル川の幻の双方を理解している。

次回の記事でこの研究を続けます。

神の御言葉を、これまでになく綿密に研究する必要がある。とりわけ、私たちの働きの歴史の中でかつてないほどの注意を払って、ダニエル書と黙示録に取り組みべきである。ある点では、ローマの権勢や教皇制に関して語るものが少なくなるかもしれない。しかし私たちは、預言者と使徒が神の聖霊の感動のもとに書き記したことに注意を向けるべきである。聖霊は、預言が与えられるにあたって、描かれている出来事においても、事柄をそのように整えられた。すなわち、人間の器は表に出ないように、キリストのうちに隠され、天の主なる神とその律法が高くあげられることを教えるためである。ダニエル書を読みなさい。そこに表されている諸王国の歴史を、要点ごとに思い起こしなさい。政治家、評議会、強大な軍勢を見よ。そして、神がどのように働いて人間の傲慢を低くし、人の栄光を塵に伏させられたかを見なさい……

ダニエルが神から受けた光は、特にこの終わりの時のために与えられたものである。シヌアルの大河であるウライ川とヒッデケル川のほとりで彼が見た幻は、今や成就しつつあり、預言されたすべての出来事はまもなく成就するであろう。

ダニエルの預言が与えられた当時のユダヤ民族の状況を考えてみなさい。

聖書の学びにもっと時間を割きましょう。私たちは、あるべきように御言葉を理解していません。黙示録は、その中に含まれる教えを理解するよう私たちに命じる言葉で始まります。神は宣言しておられます。「この預言の言葉を読む者、これを聞く者、そしてその中に書かれていることを守る者は幸いである。時は近いからである。」私たちが民として、この書が私たちにとって何を意味するのかを理解するとき、私たちの間に大なるリバイバルが起こるでしょう。それを探り、学ぶようにと私たちに与えられている命令にもかかわらず、私たちはそれが教える教訓を完全には理解していません。

かつて、教師たちはダニエル書とヨハネの黙示録を封印された書だと宣言し、人々はそれらから遠ざかった。見かけの神秘のために多くの人々がそれを取りのけるのをためらってきたその覆いを、神ご自身の御手が、神の御言葉のこれらの部分から取り去った。「黙示録」という名そのものが、それが封印された書であるという主張と矛盾している。「黙示」とは、重要な事柄が明らかにされることを意味する。この書の真理は、この終わりの時代に生きる者たちに向けられている。私たちは、聖なる事柄の聖域において、覆いの取り除かれたところに立っている。私たちはその外に立ってはいならない。私たちは、ぞんざいで不敬な思いや、性急な足取りではなく、敬虔と神への畏れをもって入るべきである。私たちは、黙示録の預言が成就しようとしている時に近づいている……

私たちは神の戒めと、イエス・キリストの証し、すなわち預言の霊を持っている。神の御言葉のうちには、価に替えがたい宝石が見いだされる。この御言葉を探求する者は、心を澄ませておくべきである。飲食において、ゆがんだ食欲に決してふけてはならない。

もし彼らがこれをするなら、頭は混乱し、この地球の歴史の終末の場面に関係する事柄の意味を見いだすために深く掘り下げることによる負担に耐えきれなくなるだろう

ダニエル書とヨハネの黙示録がよりよく理解されるとき、信者たちは全く異なる宗教的経験をするようになるであろう。彼らには、開かれた天の門を垣間見るような啓示が与えられ、心と思いは、心の清い者への報いとして与えられる祝福にあずかるために誰もが培うべき品性が深く刻みつけられるであろう。

主は、謙遜で柔和な心をもって黙示録に明らかにされた事柄を理解しようとするすべての人を祝福される。この書には、永遠に関わる偉大さと栄光に満ちた事柄が非常に多く含まれており、熱心にこれを読み、探り求める者はみな、「この預言のことばを聞き、その中に書かれていることを守る者たち」に与えられる祝福を受ける。

黙示録を学ぶなら、あることが必ず分かる—神とその民との関係は密接で、しかも確固たるものである。

天の世界とこの世の間には、驚くべきつながりが見いだされる。ダニエルに啓示された事柄は、その後、パトモス島でヨハネに与えられた啓示によって補完された。これら二つの書は注意深く研究されるべきである。ダニエルは二度問うた、「時の終わりまで、あとどれほどの時があるのか」と。

「私は聞いたが、理解できなかった。そこで私は言った、『ああ、わが主よ、これらのことの終わりはどうなるのでしょうか。』すると彼は言った、『ダニエルよ、あなたの道を行きなさい。これらの言葉は終わりの時まで閉じられ、封じられている。多くの者が清められ、白くされ、試される。しかし悪しき者は悪を行い、悪しき者のうちには理解する者がいない。だが賢い者は理解する。日ごとのいけにえが取り去られ、荒廃をもたらす忌むべきものが据えられる時から、千二百九十日がある。待ち望み、千三百三十五日に至る者は幸いである。しかしあなたは終わりまで自分の道を行きなさい。あなたは休み、終わりの日に自分の割り当てを受けて立つことになる。』」

書物の封印を解き、この終わりの時代に起こるはずの事柄の啓示をヨハネに与えたのは、ユダの部族の獅子であった。

ダニエルは、第一の天使のメッセージが私たちの世界に宣べ伝えられる終わりの時まで封印されていたその証しを担うために、定められた持ち場に立った。これらの事柄は、この終わりの時代において無限の重要性をもっている。しかし、「多くの者が清められ、白くされ、試みられる」一方で、「悪しき者は悪を行い、悪しき者のうち理解する者はない」。まことにそのとおりである！罪とは神の律法に対する違反である。そして、神の律法に関する光を受け入れようとしない者は、第一、第二、第三の天使のメッセージの宣言を理解しない。ダニエル書はヨハネへの啓示の中で封印が解かれ、この地の歴史の最後の場面へと私たちを導いていく。

「私たちの同胞は、私たちが終わりの時代の危険のただ中に生きていることを心に留めているだろうか。黙示録をダニエル書と関連づけて読みなさい。これらのことを教えなさい。」『牧師への証言』112～115頁。